



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校

令和元年 6月26日

“感性”を育む

校長 菅原 透



例年、プール開きを行うと急に肌寒くなります。異常気象といえる5月の猛暑もありましたが、最近は梅雨空の連続。水温22度気温20度以上で合計45度以上が水泳可の条件ですので、なかなかクリアできません。(今年から、水温32度以上で気温との合計65度以上は不可との条件も加わりました。)暑すぎるのは困りますが、プールに子ども達の歓声が響く夏空が待ち遠しいこの頃です。

さて、先日、放送委員会の子ども達による、新任の先生方の紹介ビデオ撮影がありました。どんなことを話さなくてはいけないのかドキドキでした。その質問の中に「特技」がありました。若い頃ならば「バレーボール!」と即答したはずですが、今では見る影もなく…。(今も若いつもり。しかし、現実厳しい!)何を言おうかと考えていたら、放送委員のメンコちゃんから「周りの人を笑わすことですか」との言葉がありました。元気印が自分の本分で、みんなが明るくなれたらいいと思って過ごしていますが、赴任2か月でそれを子どもから指摘されたのは嬉しい限りでした。結局インタビューでは「マイクを使わなくても、みんなに声を届けられること」と答えました。それを聞いていた放送委員のメンバーは、

全員が頷いて納得。(放送時は、自分より他の職員に目を奪われました。荒砥小学校は芸達者の優秀な先生ばかりです!)

感じ取る力、感覚…いわゆる“感性”。決めつけはよくありませんが、こんな感じと推し量れるのは大事です。校長先生はこんな人とピタリ言い当てるのも、校長自身が自分はこうですと言ったことに納得できるのも、子ども達の感性が育っている証しだと思いました。美しいもの、温かいもの、優しいもの、それらにふれると感性が磨かれると言います。きっと、子ども達は、すてきな体験をご家庭でいっぱい積み上げてきたのでしょう。様々な感じ取れるようになると、自分の考えや行いに奥行きがでてきます。自分と周りの考えの違いに気づいたり、折り合いをつけたりして生きる術を覚えることもできます。みんなが気持ちよく生活するために自分がよかれと思って動くことができれば、人生は豊かになるでしょう。“一人ひとりみんな違ってみんないい。”個々の感性を磨きながら、集団としての生き方も学んで成長していく。そのような荒砥小学校でありたいと心から願っています。(私にふれてニコニコ、おなかをさわって「気持ちいい」という子どもが増えています。何を感じ取っているのやら…。)